vol.18

老齢動物の病気について（1）

前号に引き続き、動物の認知症やそれに伴う困った症状に効果の期待できるサプリメントについて考察します。

先月号では「**オメガ３脂肪酸**」が人において、認知症予防や心臓病、脳疾患の予防に十分効果が認められていないことをお話ししました。動物においては、子犬・子猫の脳の成長を助け認識機能の発達に重要であるという報告はありますが、認知症に関するエビデンスはないようです。しかしながら、抗炎症効果により高齢犬に多い関節疾患や皮膚病に効果のあることは知られており、抗凝血作用や血管拡張作用により脳血流を改善したり心臓や腎臓を保護したりする可能性も示唆されています。

高齢動物が**オメガ３脂肪酸**を適度に摂取することは健康維持に良い効果が期待できると思われます。**プラズマローゲン**という成分も認知症サプリとして市販されています。抗酸化作用を有したリン脂質で**オメガ３脂肪酸**を多く含んだ物質です。次に紹介する抗酸化作用を有する成分も含んでいます。

●「抗酸化作用を有する成分」

認知症における脳の病理学的変化が生じるメカニズムには、フリーラジカルという酸化物質が脳細胞を傷害することが関わっています。そこで抗酸化作用のある物質が脳疾患に効果があるのでは？ と考え、いろいろな**抗酸化成分**を含むサプリメントが市販されています。

その成分は、**ビタミンE**、**ビタミンC**、さまざまな**フラボノイド**（**プロポリス**、**イチョウ葉エキス**、**テルペンラクトン**、**クルクミン**、**大豆由来ホスファチジルセリン**、**サポニン**、**カルチノイド**、**ポリフェノール**）などです。この他に**ミトコンドリア補因子**（**L－カルニチン**、**αリポ酸**、**コエンザイムQ**など）があり、身体のいろいろな細胞を酸化物質から保護することが期待されます。

抗酸化物質は脳ばかりでなく、酸化ストレスによって引き起こされるさまざまな病気などから我々の身体を守っていると考えられています。人では記憶力、注意力、集中力、判断力の改善に効果があったというデータがあるようですが、人・動物共に、認知症に対するエビデンスは証明されていません。

認知機能不全症候群⑧
「認知症の治療と予防(7)」

文・写真　中西章男
text & photo by Akio Nakanishi

●「睡眠や精神疾患に効果のある成分」

動物用のサプリメントとしては、**アンキシタン**、**GABA**、**ジルケーン**などがあります。**ストレス軽減**や**リラックス効果**をうたっています。また、牛乳に含まれる**ミルクプロテイン**にもこの効果があるといわれています。これらは、夜鳴き、徘徊などに処方されます。

次号では、これら**睡眠**や**精神疾患**に効果のある「動物に処方される**薬品**」についてもご紹介しておこうと思います。

Profile

獣医師・獣医学博士。1959 年生。1986 年日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）大学院博士課程卒。大学ではフィラリア症の血行動態、腫瘍および外科の免疫について研究。1987 年東京都杉並区で「阿佐谷ペットクリニック」を開院。小動物の総合診療医として犬猫のみならずウサギ、小鳥、ハムスター、モルモットなど数々の動物を診療してきた。趣味：ゴルフ、モータースポーツ、機械いじり、動物たちとの戯れ。著書：『車イスに乗ったチロ』集英社